

輝かしい 新春を迎えて

中央公民館長 間野良知



皆さん、
新年明けましておめでとうございませう。
伸びゆくわが郷土、それは全町民みなさんの心からの願いであります。

それにお応えして町当局・町議会は、行政関係者一同、よりよい町づくりのために心をくわいておられるのであります。そうした中における社会教育の使命というものが、どんなに重要なものであるかというところは、今更申し上げるまでもありません。
幸い、それに対して最も深いご理解をお持ちの五十嵐町長のご英断と、熱意ある町議会のご協賛によって、過去幾多の社会教育施設が生まれたのであります。



須戸町公民館 知日 印刷所
須野良 5 日
間野 1 1 5
毎 月 部 1 5
一 昭 栄 堂 印 刷 所

特に、昨年完成しました中央公民館・総合グラウンド・老人生きがい対策施設（楽焼教室・温室）等は、県下に誇るべき素晴らしいものであります。更に中央公民館につきましても、これを記念し祝賀されました。各方面からお心のかもった品々のご寄贈をいただいたのであります。
中でも町社会教育の生みの親、育ての親である田中四郎さんより、図書充実費として壹千円という高額のご寄附をいただいたことは、全県社会関係の大きな話題となっております。

設備を十分に活用して、社会教育そのものの内容を高め、明るく美しい町づくりへと展開するのには、これからの取り組みが重要です。輝かしいこの新春こそそのスタートというべきであります。
過した希望と喜びの年から、新しく迎えた着実に実績の年へ——
私たちは一段と心を引締め、それに立ち向かうと期しております。
この上にも皆さんのご支援ご協力をお願いいたします。年頭のご挨拶といたします。
ふるさとの
大きな生命よ
初日の出
良遊

新年明けまして おめでとうございませう

- | | | | |
|-------|-------|---------|-----------|
| 町長 | 五十嵐重雄 | 中学校長 | 中野 象男 |
| 副町長 | 榎田 友男 | 小須戸小 | 今井 一夫 |
| 収入役 | 上田 友男 | 矢代田小 | 相馬 英夫 |
| 議会議員 | 高山 三治 | 高校主任 | 桜井 猛 |
| 副議長 | 新井田七郎 | 消防団長 | 須藤 照七 |
| 議会議員 | 穴沢長太郎 | 警察署長 | 青野 貞吉 |
| 議会議員 | 松尾 健一 | 小須戸郵便局長 | 塩田正二 |
| 議会議員 | 小川 久 | 矢代田 | 保科 栄 |
| 議会議員 | 大貫三郎 | 電話電話局長 | 山田久正 |
| 議会議員 | 土屋 安二 | 矢代田駅長 | 坂井 善吉 |
| 議会議員 | 荒木安太郎 | 農協組合長 | 岡田 六衛 |
| 議会議員 | 高野 良雄 | 商工会長 | 梅津英五郎 |
| 議会議員 | 中野 一雄 | 連合老人会長 | 白井 門蔵 |
| 議会議員 | 本多 統 | 婦人会長 | 松沢 キヨ |
| 議会議員 | 栗原 久平 | 青年団長 | 五十嵐 力 |
| 議会議員 | 広瀬 親平 | 連合会長 | 加藤 三友 |
| 議会議員 | 梅津英五郎 | 体育協会長 | 渡辺 欣二 |
| 議会議員 | 佐藤太加志 | 東京小須戸会 | 長谷川邦芳 |
| 議会議員 | 榎 貞吉 | 特別会員 | 米田 東吾 |
| 議会議員 | 新井田辰男 | 新須戸小須戸会 | 加藤 一郎 |
| 議会議員 | 砂井 武雄 | 中央公民館長 | 間野良知 |
| 議会議員 | 野崎 迪夫 | 副館長 | 木村敏三郎 |
| 議会議員 | 平岡 安雄 | 副館長 | 森田 登 |
| 議会議員 | 木村 耕平 | 副館長 | 佐藤 正雄 |
| 議会議員 | 長井 武雄 | 副館長 | 松尾 健一 |
| 教育委員会 | 岡田 六衛 | 副館長 | 川瀬 弘一 |
| 委員 | 川瀬 弘一 | 副館長 | 新保 川瀬 弘一 |
| 委員 | 保科 栄 | 副館長 | 横水 木村敏三郎 |
| 委員 | 笠原 省二 | 副館長 | 他本館分館役員一同 |
| 委員 | 岡田 寅男 | 副館長 | (順不同) |
| 委員 | 楠原 真次 | 副館長 | |
| 教育長 | 楠原 真次 | 副館長 | |
| 教育委員 | 楠原 真次 | 副館長 | |
| 教育委員 | 楠原 真次 | 副館長 | |
| 教育委員 | 楠原 真次 | 副館長 | |
| 教育委員 | 楠原 真次 | 副館長 | |

賀状の御礼

東京小須戸会・新須戸小須戸会の方より、たくさんの年賀状を頂きました。厚く御礼申し上げます。(中央公民館長)

今年のテーマは ゆつくり走ろう会

今年で四回目を迎えた同大会は異常ともいえる快晴に恵まれ、最高のコンディションの中で約六十名が参加、全員無事に完走しました。中にはAとBの両コースを走ったつわものもあり、ヤンヤの叫声をあげました。今大会から表彰を廃止し、自分の使用したゼッケンを進呈、さらに所要

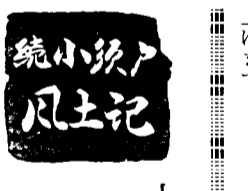


オレの記録は？

歳末助け合い托鉢 浄財を社会福祉へ

小須戸町仏教会
仏教会では五日間に渉り恒例の歳末助け合い托鉢を修行いたしました。年々町民各位の温かいご理解とご協力が高まり、今回は二〇万四〇九六円という過額の喜捨がありました。五十嵐義徳会長より、町長さんを通じて町の社会福祉事業へ寄託されました。
なお、托鉢のご寺院方々にお食のご供養を賜った左記施主並びにご協力の者に対し深く御礼を申し上げます。

- ◎中食施主
天ヶ沢 今井金次殿
小須戸 松崎広治殿
矢代田 坂口道海殿
横川浜 加藤友春殿
新保 川瀬弘一殿
◎特別参加
新保 高山重太郎殿
新津市程島 十寺院庵主殿
白根市和泉 青蓮庵庵主殿
◎日程等の有線放送
小須戸町農協殿



土俗信仰(外) 地蔵さまと 地蔵講

柏 大治
さすか山手地区(矢代田)・天ヶ沢新田の民俗文化財の宝庫で、矢代田三蔵坂には「湯殿山講中」地蔵さま、石塔(経石)が出る。宝暦四年(禪不明)金出入口の祠には「小地蔵」寒念仏供養塔、六十六部日本廻国供養塔行者兵衛助、「大地蔵尊の台座」西国三十三カ所不明、「順不同」奉納大乗妙典六十六部供養塔(法華経のこと)庚申塚、観音菩薩小地蔵等、五本田(旧小學校跡)に「六十六部供養塔」「花立地蔵」(南波沢新田には「湯殿山」彌彦大明神「山ノ神」鎌倉新田にも色々の信仰があり、これはその一部です。次に地蔵講について紹介しましょう。
高ヶ沢地区の地蔵講は、穴沢貞吉氏によれば、講員は二十二人から三十三人位で毎月二十三日に行われ、当番制で動行の内容は、「三寶帰依文」一回これは「仏法僧」に帰依し、自分の過去から造つてきた身口意の悪業を懺悔すること、あなたにとっての十大ニュースは？
1、町名変更(四月)
2、不審火相次ぎ、自警団が発足(十二月)
3、中央公民館完成(八月)
4、総合グラウンドが堤外地に完成(九月)
5、田中文庫開館(十一月)
6、中央町五棟全焼の大火(七月)
7、町長三選と議会議員改選(一、四月)
8、県立高校誘致期成同盟発足(五月)
9、中学校同窓会第一回総会開催(八月)
10、矢代田に第二保育所新築される(二月)

最後に講の起りに「塵添蓋のう紗」について一寸ふれておきます。「塵添蓋のう紗」は、舒明天皇七年(五月)十七年(五月)に於て講経あり、其時、惠浄法師と云、人を召て(無量壽経)被講、是宮講の始也。持統天皇七年(六九三)仁王最勝講十二講を行はる。講以前度々ありと云共毎年の儀と成事、此年より始也」とお経を講義する意味だと思われまふ。講堂(学校)とも一連の関係があります。文化、文政頃には信仰に関係のない旅行をするための浪花講、浪花三郎氏から、御本尊を拝見させて頂きました。錫杖一本、子供が石を拾って、地蔵さままで講員は十五人、毎月二十三日に始まり、二月から十一月で戸終ひ、次回は観音さまへ続く。

